

ライフステージで見る LGBT

LGBTは人それぞれの個性だと紹介しましたが、自分がLGBTであることで、さまざまな悩みを抱えている人たちがいます。周囲がどのように配慮し、受け入れていけばよいのか、人生の4つの大きなライフステージごとに考えていきましょう。

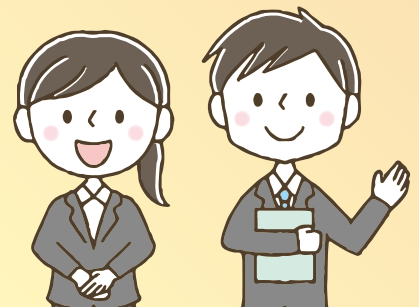
教育

小中学生の子どもたちの中にも、自覚あるなしにかかわらずLGBTは存在しているといわれています。性のあり方の多様性は理解が難しい内容です。また、周囲から理解が得られないだけでなく、自分自身が周りとは違うのがおかしいのではないかと考え、精神的に追い込まれてしまうことがあります。こうした状況は、子どもたちだけでは解決できません。大人がまずLGBTを理解し、子どもの声に耳を傾けながら、気持ちに寄り添うことが必要です。

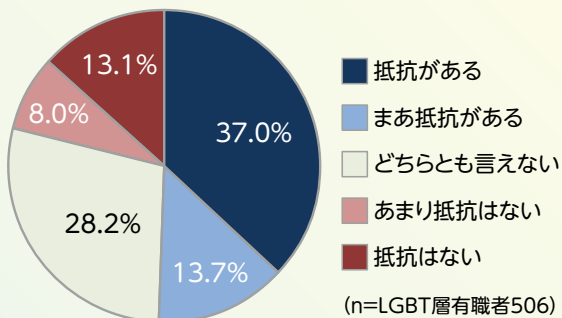


就職

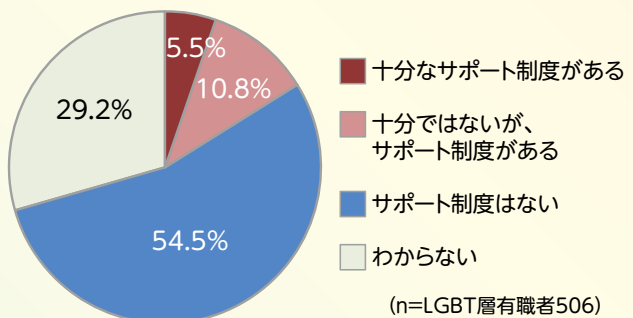
近年、LGBTなどの性的少数者の方を支援する企業も出てきていますが、社会全体で見ると、性の多様性に関してサポート制度がない企業もあります。企業側も個々のセクシュアリティに対して質問したり、採用や人事評価の判断材料にすべきではありません。また、LGBTを一種の「キャラ」のように扱い、話を盛り上げたりすることは、当事者の方にとって非常に苦痛なことです。自分のセクシュアリティをカミングアウトしていない方がいる可能性もあります。配慮の無い発言はやめましょう。



あなたは、職場の同僚(上司、部下含む)にLGBT当事者であることをカミングアウトすることに、抵抗がありますか。

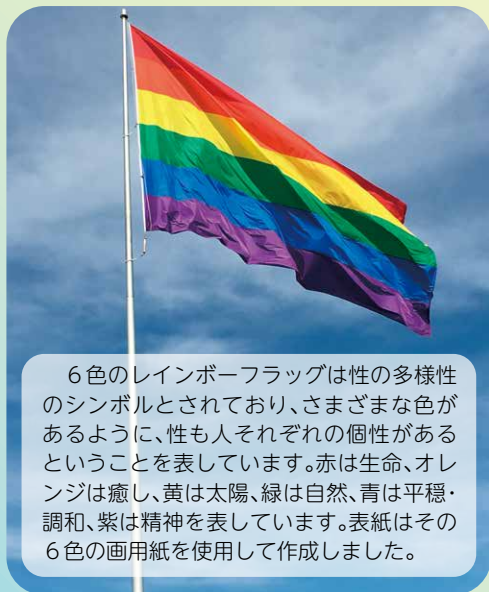


あなたが勤めている企業では、性の多様性に関してサポート制度がありますか。



職場のサポート制度：同性婚でも配偶者手当を支給するなどの福利厚生や、LGBTの理解を促進する社内イベント・勉強会の実施、トランスジェンダーも使いやすいトイレの施設など

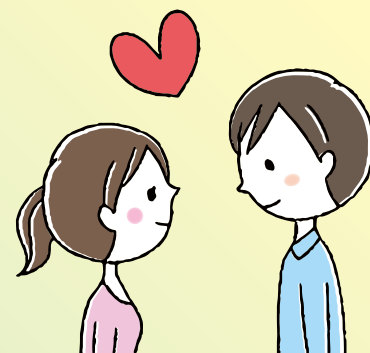
(電通ダイバーシティ・ラボ「LGBT調査2018」より引用)
※LGBT層…LGBTを含む性的少数者



6色のレインボーフラッグは性の多様性のシンボルとされており、さまざまな色があるように、性も人それぞれの個性があることを表しています。赤は生命、オレンジは癒し、黄は太陽、緑は自然、青は平穏・調和、紫は精神を表しています。表紙はその6色の画用紙を使用して作成しました。

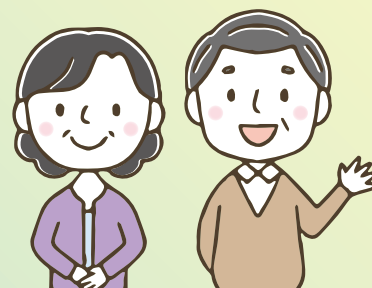
結婚

現在日本では法律上、同性による結婚は認められていませんが、最近では、同性カップルの挙式なども執り行われるようになりました。徐々に国内に理解が浸透してきており、同性パートナーシップ制度の導入など、社会的には異性婚と待遇を同じくする動きが見られます。しかし、法的な夫婦関係がないと賃貸住宅に入居できない、住宅ローンが組めないなど、そういったことが悩みに繋がっている場合もあります。近年では、そのような悩みをお持ちの方のためのブライダルサービスや不動産会社なども増えてきています。



老後

現状としてパートナーや子どもがいなかったり、家族の理解などが得られていないLGBTの方の多くは、自身の老後に不安を抱えています。「パートナーがいたとしても、万が一のことがあって病院の手続きやお金の管理はどうしよう」「老後の面倒は誰に見てもらえばいいのだろう」など不安は尽きることがありません。当事者の気持ちに寄り添った配慮や支援が必要です。



性の多様性が認められる社会へ

ここまでLGBTやそのほかの性のあり方についてご紹介してきましたが、LGBTは特別なことではなく、人それぞれが持つ個性であるということを示すだけでも理解していただけたら幸いです。

町では、このような性のあり方の多様性を尊重するために、職員向けの研修や一般住民向けの人権講座の開催、各種申請書の不要な性別欄の削除、さらに各課に人権推進主任者を配置するなど、より多くの方にLGBTを理解していただき、誰もが暮らしやすいまちの形成に取り組んでいます。町では今月から人権講座を開催し、来年2月には、LGBTの若者や子どもの支援をテーマとした公開講座を開催する予定です。(人権講座について、詳しくは24ページをご覧ください。) 町の取り組みとしては、まだ初期の段階ですが、今後も研修やホームページへの掲載など、継続的に取り組んでまいります。



▲町で開催されている人権講座の様子

☆LGBT等性的マイノリティに関する相談先☆

よりそいホットライン ☎ 0120-279-338(24時間365日、通話料無料)

みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110(8時30分～17時15分、土日祝除く)

☎ 伊奈町人権推進課 ☎ 2241